

編集後記

諸処の事情から、編集幹事を退くことになりました。しかし今後も一編集委員として、遊星人の編集に積極的に携わっていきたいと思います。よろしくお願い致します。

さて、今回は昨年11月に日本中を騒がせた獅子座流星群関連の記事を二本お届けしております。日本中の高校生が、そして世界中からあつまった科学者達が流星群をどう観測したのか？臨場感あふれるレポートを御堪能ください。矢野・浜根両氏が述べているように、今年日本で流星嵐が観測できる可能性は、決して昨年より低いわけではありません。しかし残念な事に、流星観測をサイエンスの対象として考えている日本の研究者の数は、まだまだ少ないようです。昨年のDeep-Space 1、そして今年のStardustと彗星探査機の打ち上げが相次いでいます。矢野氏の記事にある航空機観測を主催したNASAでは、獅子群の観測を、テンペル・タートル彗星の残した塵を調べるための、彗星探査ミッションとして位置づけています。夜空に輝く流星は、始源天体である彗星から剥がされた、原始惑星系円盤中の塵そのものなのです。この意味で、流星群の観測は惑星形成論の研究者にとって情報の宝庫のはずです。今年を逃すと、33年待たなくてはなりませんよ（たぶん）。

中村良介

中村良介さんから編集幹事の仕事を引き継ぐことになりました。一層充実した紙面作りのお手伝いをさせて頂くつもりです。読者の皆様には、投稿・要望、ふるってお寄せ頂くようお願いする次第です。今号は水衛星特集をお届けしました。執筆者は博士課程を最近修了された若手を中心です。ガリレオの探査だけでなく、高性能望遠鏡の開発や小天体サーベイ計画等によって、外惑星系の小天体に関する知識は膨張しつづけています。今後も焦点を絞り深く追求する態度と同時に、その周辺をも取込み、全体を貫く視点を忘れずに研究を発展されることを望んでいます。

私事で恐縮ですが、昨年11月に約4年半のPD生活にピリオドを打ち、北大地球惑星科学専攻の助手に着任しました。以来、専攻の運営や、地惑関連合同大会（今回は北大が幹事）の手伝いなど忙しい毎日です。

この間、日本における惑星科学の存在意義・将来像について考えさせられる機会が何度かありました。日本では惑星科学はまだ発展途上にあり、人も組織もより拡充すべき段階にあると思います。しかし惑星科学会の設立当初に比べると、既存環境を安易に受入れ、批判精神・起業精神に乏しい人口がどんどん増えていることに危機感を抱かざるを得ません。

これは惑星科学業界に限らず、お上の主導で生活基盤が充実してきた日本社会全体の空気かも知れません。今後5年先、10年先、20年先、…の展望を開くには、こうした空気の危うさを自覚し、それを吹き払うべく主体的に行動することが、私を含めた若い世代に課せられていると考えています。

倉本 圭

編集委員

井田 茂 [編集長] 倉本 圭 [幹事]

荒川 政彦 飯島 祐一 海老原 充 加藤 工 木村 眞 小林 憲正 小林 直樹

佐々木 晶 田近 英一 中村 良介 並木 則行 平田 岳史 松島 弘一 渡部 潤一

1999年3月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第8巻 第1号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 井田 茂 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大学院理工学研究科

地球惑星科学専攻

印刷所 〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

日本学会事務センター内 日本惑星科学会

TEL 03-3720-9885 FAX 03-5734-3538

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。

学会誌原稿作成の手引

1. 原稿の様式

はじめに委員長宛に投稿するときはプリントアウトした原稿2部，最終稿では原稿2部(1部に字体，図表の位置指定)とディスクファイルを提出すること。原稿は，原則として，ワープロにより作成されたものとする。また，ディスクファイルは5inchか3.5inchのフロッピー・ディスクで提出し，MS-DOSかMACのテキストファイルに限る。海外からの投稿など，特殊な場合は必ずしもディスクファイルの提出を要しない。詳細は事前に編集委員会に照会のこと。

2. タイトル

記事のタイトルは15字以内。また，タイトル，筆者名及び所属を和文・英文両方で付す。

3. セクション

セクションは1., 2., ..., サブセクションは1.1, 1.2, ..., 細区分は(1), (2), ..., の記号を頭にして，左寄せ，行末改行とする。また文中での区分けは(a), (b), (c)を用いる。これら記号はすべて半角文字を用いる。セクションタイトルは12文字以内で簡潔に，また，セクションタイトルとして“はじめに”，“おわりに”，“まとめ”は避ける。

4. 述語

専門用語はなるべく避けるか，十分な説明をつける。特に，対応する日本語がある場合，英語・英略語は使わない。

5. 字体

数字，英字は半角とする。また(,), [,], :, ;など区切り記号も半角を用いる。本文は立体(ローマン)，数式はイタリックで組む。本文中のイタリックは下線，数式中の立体(ローマン)は2重下線，ゴチック(ボールド)は鼓下線で朱記指定する。

6. 単位

使用単位については特に統一しない。ただし， gcm^3 ， cms^{-1} などとはせず， g/cm^3 ， cm/s とする。

7. 句読点

句読点は全角の“，”，“。”を用いる。

8. 図，表

文中での図表の引用は“図1”，“表2”の形をとる。最終稿送付に際して，図表，写真の刷り上がりの時の大きさ，位置を朱記指定のこと。他の文献から図表を転載する場合は，予め編集委員会に照会のこと。

9. 脚注

脚注は“1”などの記号をつける。

10. 文献の引用

引用文献は重要なものに限る。目安として10項目以内にする。本文中での引用は[1]，[2]の形で通し番号をつけ，論文の末尾に一括してリストを載せる。文献リストの使用言語は原論文に従う。また，文献リストは以下の形式に従う。

参考文献

[1] Wakusei, T., Kinsei, S., and Mokusei, Y., 1989: Origin of the Solar System. *Astron. Astrophys.* **220**, 293-330.

[2] 惑星太郎, 1992: 電波による惑星形成の観測. *天文月報* **85**, 186-190.

11. 原稿の送付先 投稿時の原稿送付先は

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻 井田茂

FAX : 03-5734-3538 E-mail : ida@geo.titech.ac.jp

最終稿の送付先は

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

Room : 理学部4号館305号室 倉本圭

FAX : 011-706-3567 or 011-746-2715

E-mail : keikei@neko.lowtem.hokudai.ac.jp